

大泉あさひで通信

発行：社会福祉法人 大泉旭出学園 旭出生産福祉園 〒178-0063 東京都練馬区東大泉7-21-32

Tel 03-3925-6166 Fax 03-3925-6169 HP <http://www.asahide.or.jp/>



働き方改革と 障害者の就労支援を考える

旭出生産福祉園園長

浅井 浩

■一億総活躍社会と働き方改革について

政府は、平成 28 年 6 月の閣議決定において「一億総活躍社会」を目指すしました。そして働く人の事情に応じた多様で柔軟な働き方を選択できる社会を実現するために、①働き方改革を総合的に推進 ②長時間労働の是正、③雇用形態にかかわらず公正な待遇の確保等の措置を講ずる法律「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律（働き方改革関連法）」が平成 30 年 6 月に成立、7 月 6 日に公布され、昨年の 4 月より順次施行となり、働き方改革がスタートしました。

「働き方改革」は、教育や福祉の人材確保や育成にも関係することであり、障害者総合支援法による就労支援事業や日中活動支援のあり方などにも関係してくることでと思います。

社会にはいろいろな仕事や働き方、活動の場があり、人が目覚ましい活動や働きをすることを一般的には「活躍」というわけですが、厚生労働省が公表した「平成 30 年版 厚生労働白書」のサブタイトルには、「障害や病気などに向き合い、全ての人が活躍できる社会に」とあります。障害や病気とどのように向き合うかは、きわめて大事なことであり、誰もが活躍できるような社会はすばらしいと思いますが、この白書のサブタイトルにはなぜか違和感を覚えます。それは、「病気や障害と向き合う」ということと「活躍できる」ということは、一般的には相いれない事柄だと思ふからです。

「障害や病気など」と向き合い、全ての人が安心して暮

らせる社会に」というのであれば理解できますが、全ての人が活躍できる社会とは、実際、具体的にどのような社会なのでしょう。白書の冒頭には次のように記されています。

少子高齢化と人口減少という、これまでに経験したことのない危機に対処するため、政府は、「ニッポン一億総活躍プラン」（平成 28 年 6 月閣議決定）において、女性も男性も、お年寄りも若者も、一度失敗を経験した方も、障害や難病のある方も、家庭で、職場で、地域で、あらゆる場で、誰もが包摂され活躍できる「一億総活躍社会」を目指すこととした。一億総活躍社会、すなわち、全ての人が包摂される社会が実現できれば、安心感が醸成され、将来の見通しが確かになり、消費の底上げ、投資の拡大にもつながる。また、多様な個人の能力の発揮による労働参加率向上やイノベーションの創出が図られることを通じて、経済成長が加速することが期待される。

この一億総活躍社会を実現するためには、障害者、難病患者、がん患者等が、希望や能力、障害や病気の特性等に応じて最大限活躍できる環境を整備することが必要である。病気や障害などを有していても、自己の能力を最大限に発揮し、個性を活かして生きていけるようにすることは、本人の人生の充実という観点から大切である。そして、働くことを始めとする社会参加の意欲のある人誰もが、その能力を発揮できるような環境づくりを行うことは、社会保障の支え手を増やす観点からも、我が国の経済活力の維持にとっても重要である。（以下略）

「活躍」という言葉に元気や勢いを感じることはできても、果たして誰もが希望をもち、期待に応えることができる「全ての人が活躍できる社会」になるのかどうか。受け止め方によっては、障害や病気で活躍できないのはダメな人間だというようなことにもなりかねないような不安を感じます。

■障害者の働く権利の保障と福祉的就労の意義

働く権利は誰にもあります。当然、障害の内容やその程度や状態によってもいろいろな働く場や働き方があ

るはず。障害者自立支援法（現・障害者総合支援法）の狙いの一つに「障害者がもっと働ける社会に」ということがあるわけですが、果たして現状は狙いどおりになっているでしょうか。

人が働くということと「生活の質」の問題は大きく関係します。しかし働く場があり、収入を得ることができれば満足や納得のいく働く質や生活の質の確保ができるかとなると必ずしもそうではないと思います。それは人それぞれが自らの生活をどのように受け止め、感じるかといういわば主観的な評価や価値観によるものだからです。そこに「福祉的就労（福祉施設等で作業などに従事すること）」の場の果たす意味があるわけです。

福祉的就労と労働法との関係が問題になっていますが、それは障害者福祉及び社会保障のあり方の問題として考えるべきではないかと思ひます。なぜなら最低賃金法が適用されたとしても、工賃が倍増されたとしても、その生活は厳しいと思いますし、仮に生活費の確保はできるということであっても、自らの生活をどのように考え、どのような生活を送るかというところに困難を抱える障害の場合、それは労働法を単に適用すれば解決することではないからです。

文部科学省の公表する資料の推移を見る限り、特別支援学校の在籍者は増加傾向にあり、中学部終了者のほとんどが高専部へ進学しますが、高専部卒業生の 60% 以上は福祉施設を利用し、就職者は卒業生の 30% 前後という状況に大きな変化はなく現在に至っています。こうした状況を直視した施策が求められていることは確かであり、就労支援や日中活動等の支援の場としての施設の整備充実を図っていくことは重要だと考えます。

（令和 2 年度旭出生産福祉園事業計画）より抜粋加筆

第28回工芸展



令和2年1月29日
(水) から2月3日
(月) までの期間、
日本橋三越本店にて
第28回旭出学園工芸
展が開催されました。
年に1度の開催で、
2年間利用者の皆さんは、製品作りに励ん
できました。

旭出生産福祉園では、染織、ワークショ
ップ(紙染め製品)、まんまる(木工、タ
イル、陶芸)の製品を出品しています。旭
出の伝統を引き継いだ作品を製作しなが
らも今の時代に合った新しい作品も試作
をしながら製作してきました。

利用者さんの高齢化に伴い作業を行う
メンバーや時間が減り、またバザーや注文
品もある中での製品作りは年々大変にな
っています。しかし、長年やり慣れた作業
をすることで気持ち安定したり、達成感
を感じている方も多く、工芸展への意識を
持って頑張っている人もいます。工芸展は
作業をする上での皆さんの大きな目標と
なっています。

皆さんの力を充分に発揮していただき
製品が出来上がっていきます陶芸作業で
は、長い工程を一人でこなす方もいますが、

大抵は工程ごとに得意分野の方が分担し
ています。粘土を練る人、制作をする人、
絵付けをする人、窯入れや窯出しを行う人、
裏の部分を磨いて洗う人と何人もが携わ
っています。どなたの作品ですかとよく聞
かれますが「皆さんの作品です」と答えま
す。そして工芸展に向けては、値札付けや
梱包は、皆さんで行っています。

近年デパートで売るためには、品質の検
査を行うことや法律に基づいた品質表示
等、要求されることが多くなっています。
陶芸製品に関しては、検査機関で粘土や釉
薬の検査を行っています。染織製品などは、
洗濯や取り扱いに関する細かい表示が必
要です。手間がかかりますが、それによっ
て三越だけでなくどこにでも自信を持っ
て出品で来る製品と言うことになります。
このようにして関連施設を含め300種
類、約5800点の製品が三越に並びま
す。

今年の会場は、いつもと違いバレンタイン
のチョコレート催事場に隣接した場所
でした。そのため通常来て下さる方とは別
に、チョコレートを買いに来られた方も立
ち寄ってくれました。各製品をご覧になっ
て「可愛い!」と声を上げてくれる人も多
かったです。多くの方に旭出学園の製品を
知ってもらえることはうれしいことです。

また毎回工芸展を楽しみにされている
とおっしゃってくれる方も多いです。利用

者の皆さんが頑張って製品を作っている
ことが、ご自身の励みになっていると話さ
れた方もいらっしゃいました。利用者さん
の頑張りや、製品を通じて他の方を励まし
ていることは、なんと素敵なことでしょう。
工芸展を通じて人との出会いや言葉掛
けをいただくことが沢山あります。それは、
私たちの心に残り更に頑張つて行こうと
いう気持ちにさせてくれます。

毎回、保護者会の方には受付をお願いし
ています。お客様に芳名簿への記帳の願
いはもとより、旭出学園についての質問に
も応じて下さっています。

他にも関連施設の皆様など多くの方々
のお力で第28回工芸展を行うことが出来
ました。ご報告と感謝を申し上げます。あ
りがとうございました。

(広瀬)





今年も楽しい
クリスマス会
を行いました



クリスマス会

おいしい料理
を食べました



女性職員による
「真剣」な
ハンドベル演奏



お待ちかねの
プレゼント☆







デザートは
サンタケーキ♡



ジュースで乾杯！



お花見

気持ちの良い陽気が続きますね。コロナウィルスの関係で外出が難しい状況なので、園の敷地内でできる楽しいことを探していこうと思います。
桜を見ながらみんなでおやつを食べて気分転換しました。外の空気を吸うと心も体もリフレッシュできますね。

古希のお祝い

10/28 生まれ



S・Sさん

10/13 生まれ



楠原 祥子さん

還暦のお祝い

5/11 生まれ



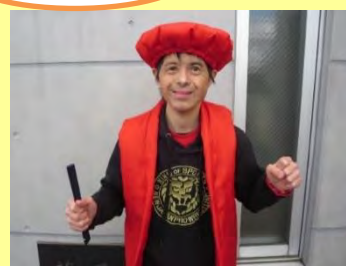
本田 早智代さん

7/2 生まれ



S・Yさん

10/25 生まれ



S・Jさん

11/14 生まれ



馬場 義孝さん

3/24 生まれ



山蔭 美佐子さん

3/25 生まれ



S・Oさん

2019年度に古希、還暦を迎えられた方々です。

これからもよろしくお願いします。

勤労感謝祭



当日が近づくにつれ雨予報が日毎、時間ごと確実性を増し、前日に判断して雨プランで決定しました。

行事での雨対策は基本的なことのプランは練っていても、降雨量や風、時間帯、気温などを勘案しつつも結局当日臨機に判断しなければならぬことが多くなりそうです。ですから晴天の時でさえ思い描いたような行事になることが難しいのに、雨となると本当に思い描くことさえできません。計画や予定はしてきましたが、結局みなさまのご協力や臨機な対応によってなんとか大きな事故や怪我がなく終えられました。

利用者の方々からは「雨で残念」「旭出まつりが出来なかった」といった声が多いのですが、「買ったよ」「あっちでゲームやってるよ」と行事を楽しむ声もきかれま

した。関わった方々全員で勤労感謝祭を作っていることを実感した、そんな一日でした。ご協力、お力添えありがとうございました。



令和元年度の勤労賞は S・Y さん、上田嵐さん、特別賞は S・R さん、3 名の方々が受賞されました。あいにくの雨を感じさせない笑顔の素敵な晴れ晴れしい受賞式でした。こうして多くの方々にお祝いして頂けることは人生の中で多くあることではありません。それだけにきつと多くの方々の目標にもなったことでしょう。おめでとうございます。(北嶋)

クリスマスフェア

十二月十二日、十三日の二日間、カポックの小枝にてクリスマスフェアを開催しました。利用者の皆さん、自分用やご家族にと真剣に選ばれています。地域の方も来店いただき賑わいました。



どれに
しようかな？



入所式

令和二年度が始まり、福祉園では新しく水島康夫さん、上田優羽さんが入園されました。

水島さんはワークシヨップ、上田さんはカポックの小枝に所属となります。旭出生産福祉園へようこそいらっしゃいました。これからよろしくお願い致します。



祝

おめでとうございます

(落合)

書道部外出

国際架橋書展を見学に書道クラブで国立美術館まで出かけてきました。

書道クラブはお習字の土屋先生を毎週お招きし教えていただいています。書展にむけて皆さん一生懸命練習をしてきました。書展ではご自身の渾身の作品が飾られ皆さん嬉しいような照れくさいようなそんな気持ちでご覧になっていました。他にもたくさんの方々の作品を見学させていただくことで勉強にも次回に向けての刺激にもなったかと思っています。

また今回は高橋真人さんが「愛」という作品で理事長賞を受賞されました。おめでとうございます。



(大野)

ヘルプマーク



外出中こんなマークやカードを目にしたことはありませんか。2012年東京都が導入したこのマークはすっかり皆さんの目にも留まるようになったのではないのでしょうか。

ヘルプマークは援助や配慮を必要としている方が周囲に気付いてもらうためのものです。実際様々な方がそれを身に付けているので、その配慮は様々です。

ヘルプマークを付けているといっても、すぐに何かして欲しいわけではない場合が多いのかもしれない。私たちにできることは、もしヘルプマークを身に付けている方を見かけたときにその方が何に困っているのかどうして欲しいのかを想像することです。もしご本人が困っているようなら「何かお手伝いはありますか」とお声がけをすることもひとつでしょう。さらに、日常とは違うことが発生した時にはもつと積極的ににかかわることが求められるのかと思います。

また必要と思われる方はお近くの福祉事務所や都営の交通機関などで無料配布をしているようですので東京都福祉局のホームページなどをご確認ください。

(北嶋)

後援会ご寄付ご芳名一覧（順不同）

令和元年十月～令和二年三月末まで

広報に記載されておりました、寄付を
頂いた方のお名前の一覧は、
ホームページに掲載するにあたり
伏せさせて頂きました。
ご了承ください。

『みなさまからのご支援ご協力に

厚く御礼申し上げます』

大泉旭出学園の事業につきましてはご高配を賜り感謝、お礼申し上げます。

特色ある独自性を発揮した事業展開とその充実を図っていくためには経営基盤を固めていく必要があります。さらに多くの方々に後援会の会員になっていただきたく、会員の方々にはお知り合いなどにご紹介いただけたら幸いに存じます。

より一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。



編集後記

現在、新型コロナウイルスの流行により、世界中で多大な被害がもたらされています。

日本も例外ではなく4月7日に安倍晋三首相より緊急事態宣言が発令されました。

その中で旭出生産福祉園にも様々な影響が出ています。利用者の皆様には多大な不便をおかけし、大変心苦しく思っております。

しかしながら現在のこの状況のなかで致し方ない判断であることをご理解いただければ幸いです。

皆で力を合わせればきっと新型コロナウイルスを早期に収束させ、今まで通りの生活に戻ることができると信じております。

手洗い、うがい、消毒、マスク着用、不要不急の外出をしない等一人ひとりができる対策をしっかりと行いこの事態を乗り切りましょう。

（落合）

